

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた
令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書
への対応状況
【2024(令和6)年度】

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
1 - 1	【指摘事項】 ・ 中心市街地の活性化、まちの歴史を語る視点として「りんご並木の精神」の言葉が必要と考える。「ねらい」6つ目の項目は「〇りんご並木の精神が息づき、市民が集い・憩う、交流や賑わいが創出される魅力的な丘のまちを形成します。」としたらどうか。	・ ご指摘のとおり、中心市街地の活性化、まちの歴史を語るうえで大切な「りんご並木の精神」の言葉を追記し、「ねらい」6つ目の項目を「〇りんご並木の精神が息づき、市民が集い・憩う、交流や賑わいが創出される魅力的な丘のまちを形成します。」とします。
1 - 2	・ 飯田市のまちづくりの理念として受け継がれてきた「りんご並木の精神」が、今後も後世に引き継がれるようなまちづくりを推進されたい。また、「りんご並木の精神」を市民に知ってもらう取組みを継続して行われたい。	・ 「りんご並木の精神」が後世にも引き継がれ、この地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進めていきます。また、多様な学習活動やりんご並木を守り、育てる活動、中心市街地の賑わいづくりなどを通して、「りんご並木」誕生の歴史による「りんご並木の精神」を広く市民に伝えられるよう努めていきます。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
2 - 1	・素案への指摘事項の対応として「社会基盤の強化」について、新たに基本目標と「ねらい」に明記をいただいた。 ・河川の危険個所の把握、事前の社会インフラ整備の情報共有、能登半島地震からの当市に生かす10項目の教訓については、今後示される小戦略等で注視していくこととする。	・「河川の危険個所の把握、事前の社会インフラ整備の情報共有」については、市道(橋りょうや舗装を含む)、水路、ため池等の計画的な更新や修繕等の長寿命化対策と準用河川改修計画に基づいた緊急度の高い箇所からの計画的な河川改修やしゅんせつなどの防災減災対策を進めます。なお、実施に当たっては、地区への事前の周知と情報共有を図りながら進めていきます。 ・能登半島地震からの当市に生かす10項目の教訓については、大規模災害に備えた住宅の耐震化など自助の支援をはじめとする公助としての取組を順次進めていきます。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
3 - 1	・【ねらい】の3つ目、「こどもにとって家庭は最初の学校」、「家庭が一番安心できる環境づくりを地域全体で進めます」について、分科会では、具体的にどのようなことなのか理解し難いなど様々な意見が出された。 小戦略を考えるとときには、整理し、明確にされたい。	・生まれてくるこどもにこれからの人生を生きていく上で必要な、食べること、遊ぶことなど大切なことを教えるのは、まず親であり、明るく、肯定的に育つか、否定的、悲観的に育つかは、その家庭の環境によって影響されることから「家庭は最初の学校」と表現していましたが、こどもと一緒に親も成長していくというねらいの表現としては、「学び」が適切と考え、「こどもにとって家庭が学びの場」に修正します。 ・地域のこどもは地域で育てるとして、子育て支援の取組が地域で展開されていることから「地域全体」としていましたが、「地域全体」はイメージするのが難しいことから再考し、「地域と一緒に」に修正します。 ・家庭や地域と共に進める取組については小戦略で整理してまいります。
3 - 2	・【戦略(考え方)】の2つ目「こどもが欲しいと望む時から」の表記について、分科会では、「(委員会として現役女子高生の「子育ては大変」との声を聞いた経過からも)この時期とした理由がわからない」など様々な意見が出された。 素案においては「系統的な生き方教育((仮称)いいだ未来創造教育)の実践により」などが記述されている項目も併記されていたことから、相対的に理解できた。原案における項目の並び替えも含めて再度検討されたい。	・ご提言のとおり、「家庭を持つこと」「親になること」を含めた、自らのライフデザインを描くことは大事な視点と捉え、戦略2と戦略3の並び順を入れ替え、表現を次のように修正します。 ・戦略2(3)「発達段階に応じて自然や文化・芸術に触れ、多様な人と関わる実体験や経験、地域との関わりを持ちながら、生涯にわたって、主体的に他者と協働しながら自らの未来を描き、その実現に向けて生き抜いていける力の基礎を育みます。」と修正します。 ・戦略3(2)「妊娠、出産、育児・子育ての心配や不安など個々のニーズに寄り添い、子育てに魅力を感じられるよう、継続した効果的な相談・支援に取り組みます。」と修正します。 ・「こどもが欲しいと望む時から」の表現については、不妊症や不育症も想定していたためこのような表現としていましたが、対象を限定する意図ではなく、個々のニーズに寄り添った支援に含まれるため削除しました。
3 - 3	・【戦略(考え方)】の5つ目「様々な困難を抱えるこども・若者や家庭を誰一人取り残さず」の表現は、「様々な困難を抱えるこども・若者やその家庭を誰一人取り残さず」としてはどうか。	・ご指摘を踏まえ、「様々な困難を抱えるこども・若者やその家庭を誰一人取り残さず、」と表記を修正します。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
5 - 1	・地域内経済循環の指標について、本来は「生産」「分配」「支出」の循環を分析(現状と将来あるべき姿を数値化)できる指標が必要と考えるが、想定するKPIの中に域産域消を示す指標があること、2店舗4品目の調査に入っているとのことから、今後の動向を見守ることとする。	・地域内経済循環における域産域消を表す指標については、戦略計画を策定する過程で、市民意識調査における「地元産品の購入状況調査」をベースとし、複数の指標の組み合わせにより相対的に示すよう検討しています。 ・行動経済学による消費拡大事業については、令和5年度に行った2店舗4品目から、本年度は9店舗2品目で実証実験を行っており、地域ポイント事業や有機農業の推進等により地域内経済循環を推進していきます。
5 - 2	・「環境文化都市」の視点については、本来全体の基本目標の横串となるべき視点であるため、難しい側面があると感じるが、「環境をテコにくらしと経済を再生していく」視点から、「環境文化都市」の文言を加える、或いは「ねらい」や戦略共に環境の要素が盛り込まれているため、今後示される小戦略等へ具体的な取組として記載する必要がある。	・外貨を獲得する力強い産業づくり、環境への配慮、循環型経済を構築する産業づくりを両立していくことで、バランスの取れた地域の持続可能な経済発展につながるという考え方で、戦略と同様に小戦略にも盛り込み、取り組んでいきます。
5 - 3	【指摘事項】 ・「ねらい」の2つ目の○で「地域の全ての産業が成長・発展するように人材不足の緩和と適応を図ります。」とあるが、これだと人材不足の緩和と適応が図られれば全ての産業が成長・発展するようにも読める。全ての産業の成長・発展にはさまざまな要素があることから、書きぶりの再考を望む。	・ご指摘を踏まえ、「地域産業における人材不足の緩和と適応を図ります。」と表記を修正します。
5 - 4	【指摘事項】 ・産業建設分科会から指摘した「地域内経済循環の推進にあたっての企業や生産者の意識づけ」や「女性や若者が活躍できる環境整備」は大変重要な視点と考える。今後示される小戦略等で注視していくこととする。	・2つの視点については、小戦略に盛り込み、取り組んでいきます。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
7 - 1	4つの指摘事項については、想定する主な取組「関係者等への意向や環境影響等への十分な配慮を行いながら、リニア駅前広場の一部供用を行うなど段階的な活用を目指した整備」の中で行うとのことであった。 今後示される小戦略等で注視していくこととする。 【中間評価における4つの指摘事項】 ①リニアの開業の延期は、工事等が及ぼす地域住民への影響の長期化をもたらすこととなるが、これにどう対処するのかといった視点が必要。 ②リニア駅前広場の一部供用については、維持費をペイできるだけの活用策が求められる。開業期に合わせた可変性の観点も必要。 ③三遠南信自動車道の開通が及ぼす当地域への影響があまり議論されていないと感じる。開通を見据えた取り組みについて、今後どのように進めていくべきかの検討がなされているのか、いないのか、なされていないのか、どうしていくかの道筋を示すことが必要。 ④JR東海に対しては、県と歩調を合わせて、強い姿勢で臨み、具体的な施策の展開に取り組まれない。	- ご指摘の点は、今後、戦略計画を策定する過程で検討してまいります、検討の方向性は以下のとおりとします。 - ご指摘のとおり、リニア中央新幹線の開業時期の延期は、工事期間の長期化など地域住民への影響があるものと考えます。市としては、関係者等の意向や環境影響等への十分な配慮を行い、地域住民の皆様にご負担とならないような工事等を実施するほか、関係機関に対しても最大限の配慮を要請してまいります。 - リニア駅前広場の一部供用に伴う事業性の確保については、リニア駅前広場の一部供用箇所の具体的な活用方法に加え、維持管理方法やそのコスト等を含め、プロジェクトの中で具体的な検討を進めます。 - 三遠南信自動車道の開通が及ぼす当地域への影響については、その効果を地域産業振興に活かしていく視点から、基本目標5の中での取組を構築してまいります。なお、基本目標7では、三遠南信自動車道の効果を地域産業振興や地域の活性化に活かしていくための関連道路などの社会基盤の整備に注力してまいります。 - JR東海や長野県と事業間の協議調整を行い、早期のリニア開業に向け、事業者間で歩調を合わせて各事業に取り組めます。
7 - 2	DXの推進について、「まちの基盤」をつくるという視点から、この基本目標とのことであるが、情報系のイメージが強くその進捗状況は見えにくい状況にある。DXの推進は、今後更にまちづくりのあり方にも大きく影響を与える事項と考えられる。高齢化率の高い当地域にあっては、デジタル弱者への対応も求められている。各基本目標の戦略において「デジタル技術の活用」がうたわれており、DXへの取り組みは大きなテーマとして捉える必要がある。	DXの推進は、行政サービスの向上や市民生活のあらゆる分野に共通する取組であることから、後期計画の策定に当たって、各基本目標においてDXの視点を置いた戦略を組み立てています。そのため、DXの推進は全分野に共通する大きなテーマとして捉え、後期計画策定の考え方として位置付けて基本目標7からは削除し、行政事務DX推進方針や新たに策定する地域DX推進の方針を定めたロードマップに基づいて全体の進行管理を行います。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」策定に向けた令和6年度「市議会による行政評価」からの提言書への対応状況

基本 目標 - No.	「いいだ未来デザイン2028 後期計画」原案への提言内容	提言への対応状況の説明 (考え方や対応状況について記載)
7 - 3	・「ねらい」1つ目の項目、素案では「～見据えた土地利用計画の検討、見直しを進めます」、原案では「～見据えた土地利用の誘導を図ります」となっている。全市的・広域的な土地利用が示されていない段階としては、「誘導」という言葉は違和感があるため、「～見据えた効果的な土地利用を推進します」に一部変更する必要がある。	・ご指摘のとおり、「～見据えた効果的な土地利用を推進します」に修正します。
7 - 4	・「原案」戦略(考え方)の3つ目◆「～(略)～関係機関等 との調整を図るとともに関係者 等 の意向や環境影響 等 に十分配慮しながらグリーンインフラ等の～(略)～」文章中の「等」の記載に工夫が必要。	・「等」の記載について、ご指摘を踏まえ修正します。